

ひかりのこ

光の子



No.218 2025.7.1

●年間聖句 すべてを吟味し、良いものを大切にしろ。(テサロニケ信徒への手紙I.5章21節)



「好奇心」

表紙絵・中島 由起子

子どもたちの俳句

花見より 鼻が痒くて 離れたい
(高3女子)

期待は2 不安は8の 新学期
(中3女子)

爆買いで 桜と共に お金散る
(中1女子)

マジサイコー 桜に屋台 祭りだぜ
(小2男子)

最高だ この瞬間の 春景色
(小4女子)

たべたいな 苺大福 おまんじゅう
(幼児年長男子)

新緑と 青の間で 泳ぐ鯉
(中2女子)

光の子どもの家児童

「別れ 出会い そして決意」

光の子どもの家 施設長 穴水 祐介

今年度の光の子どもの家の年間聖句は、「すべてのことを吟味し、良いものを大切にしないさい」（テサロニケ信徒への手紙Ⅰ5章21節）です。

光の子どもの家では、人材不足は解消されず、子どもたちの養育の困難さや課題は増えるばかりですが、神様からいただいた使命―光の子どもの家の子どもたちを心豊かに育てる―を、職員一同助け合いながら取り組んでまいります。

その意識を確認するために今年度から毎朝の職員のミーティング前に「アッシジのフランシスコの祈り」を参加者一同で読むことを始めました。この祈りの文は、日々困難の中で子どもたちと共に生きる私たちが大切にしなければならぬ姿勢であるとともに、光の子どもの家の理念でもあります。毎日このことを確認し、一日のスタートをしてほしいとの願いがあります。

す。主よ わたしを平和の器とならせてください／憎しみがあるところに愛を／争いのあるところにゆるしを／分裂には一致を／疑いのあるところに信仰を／あやまりがあるところに真理を／望みなきところに希望を／暗きには光をもたらずものとしてください／主よ なぐさめられるよりも人々をなぐさめるものにしてください／理解されることよりも 理解するものに／愛されることよりも 人々を愛するものとならせてください／それは わたしが自ら与えることにより受け／ゆるすことによつてゆるされ／自分の体をささげ 死ぬことによつて／永遠の命を得ることができからです／主キリストによつて／アーメン

この春、光の子どもの家とはとても慌ただしい毎日でした。3月14日の「出発（たびだち）の会」では3名の若者

たちにくささんの方々からはなむけの言葉をいただきました。

障がい者グループホームに生活の場を移した若者は、日本有数の温泉地にある老舗旅館で働いていると、自信に満ちた顔で報告をしていました。

大学に合格した2名の若者たちは、後ろ髪を引かれる寂しさと初めての1人暮らしに期待と不安をいっぱい抱えてそれぞれの場所へ旅立って行きました。自炊した料理の写真を職員に送ってきたり、課題の大変さを伝えてきたりと、なんとかスタートを切っています。

小さな3名の仲間たちの出発もありました。自分の生活だけで大変な状況だった親が、新たなパートナーと出会い、家庭引き取りの希望をされ、児童相談所と協力をしながら計画的に交流を進め、幼児2名は新しい家族との生活を始めました。仕事の都合で共に暮らすことができなかった親子は、親族や行政のサポートの体制が整ったことで新しい生活場所である東北で生活を

始めることになりました。

光の子どもの家の児童定員数は現在36名です。昨年度3月末までに7名が退所しました。定員に空きが出た場合は新たな子を受け入れます。

3月～4月で幼児1名、小学生3名、中学生2名の計6名が新しく仲間に加わりました。ほとんどのケースが過酷な虐待環境にありました。これまででは本当に不安と恐怖だったことでしょう。この子らにとつて光の子どもの家が安心で安全な居場所であり、自分自身を心から受け入れ、夢を持つことができるような生き方をしてほしいです。

光の子どもの家開設創期から40年間大黒柱の1人として支え続けてくれた池田祐子さんが退職しました。長きにわたり、子どもたちのために粉砕身に関わり続けた成果は後々になって表れ、担当してきた子どもたちが池田祐子さんを慕って帰ってきます。送別会にも大勢の卒園生が駆けつけてくれました。職員たちはその姿にリスペクトし絶大な信頼をよせていました。職員としての立場は外れました



ニューフェイス同士で

が、これからは応援団の1人として関わり続けてくれます。

そして、フレッシュな若者が遙々鹿児島からやって来てくれました。未知なる土地、初めての仕事、短大を卒業したばかりの長井清香さんが4月1日付で保育士として仲間に加わってくれました。初めての環境と子どもたちとの関わり、戸惑い緊張の毎日でしたが、持ち前の素直さと暖かい心で向き合ううちに、今は笑顔で頑張ってくれています。慣れないながらも子どもたちのために愛情をたっぷりこめた料理を作ってくれています。子どもたちから「長井さんおいしい！」の声に力をもらい毎日奮闘しています。

子どもたちとの生活は平穏な日常だけではないかもしれません。子どもたちの成長を見守ると共に長井さんの成長を先輩職員たちが支えていきます。

すべてのことをよく吟味して神様が示してくださる道を光の子どもの家一同誠実に歩んでまいります。

新任職員から 「いっしょに」

長井 清香

こんにちは。光の子どもの家に4月から職員として仲間に加えていただいた長井清香と申します。

私は埼玉県ではなく九州の鹿児島県出身で、短大を卒業してこちらにやって参りました。

初めてのお仕事、初めての埼玉県、初めての1人暮らしで、不安がありながらも楽しく子どもたちと毎日を過ごしています。まだ入職して1ヶ月、日々学ぶことばかりでご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、子どもたちの笑顔、成長を共有できるような存在になりたいと思っています。

ます。

実はこちらに来てから、子どもたちとだけではなく職員の方との間でも困ったことがあります。それは「方言」です。よく使われる「片付ける」は鹿児島では「なおす」と言います。「これなおして」と無意識に出てしまうため、子どもたちは「？」の表情になっていました。現在は意識して「片付ける」と言うことができるようになったと思います（多分）。他にも「かばんを背負う（しょう）」を「からう」と言ったり、「いや」を「うにゃ」と言ったり育ってきたため伝わらないこともあります。言いたいことが伝わるように気をつけていきたいと思っています。

まだまだできないことばかりですがご指導、ご助言をいただきながら自分らしく前向きにひとつひとつ吸収していきたいです。よろしく願っています。

仙道家より

「大きな子たち」

奥寺 美鈴

新しい年度になり多少の顔

ぶれが変わり新年度をスタートしました。新しく中学2年生の女兒を迎えて、高校生1年生の女子もグループホームから本園に戻ってきてまた一緒に生活する事になりました。

仙道家は年齢のペースが上がり小学生以上の子どもが7人居ます。そんな中でやはり家族の問題を抱えながら生活をしていく子どもたち、小学校の高学年以上で入所になった子どもたちの心の負担の大きさを感じます。幼児さんの様に泣き喚いてあやしてもらって安心するなんて年齢ではないが、私達大人が想像する以上の不安や喪失感、諦めを持つて生活をしているのを目の当たりにし、改めて心が成長していない時期での傷つきの後に残る問題の大きさを実感します。

それでも子どもは日々の生活の中で笑って怒って泣いて子どもなりに成長をしています。それを自由に出せるのが健全な生活なのだろうと思います。見守っていかうと思います。

その時、そしてまたその時に

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

3泊4日の日程で、友人夫婦と私たち夫婦4人で台湾を旅した。記憶が定かでないのだが、以前、4人で会ったときに、美味しい台湾料理を食べてみたいと私が発言したらしい。目的は叶えられた。台湾の小籠包は格別だった。台湾の方が食べているのを覗き込むと、れんげの上に小籠包を乗せ、まず箸で穴を開けて、中の汁を吸いこんだ後に、パクリと食べる。真似てみると、小籠包から流れ出てくる汁の味が抜群で、なるほどと思った。

美味しい麺を食べさせる店を、同行の友人がネットで見つけてきて、食べに出かけた時の事である。案の定混んでいて、店の前に置かれた腰掛に座って待つことになったが、店員がごく小さな茶碗に台湾茶を注いでくれる。年を取ったせいで、最近手元が不如意で、よく飲み物をこぼす。その時も、2回目に注い

でもらった茶碗をひっくり返し、ズボンを濡らしてしまつた。すべて私の非なのに、その店員はいたく恐縮して、私の分からない台湾の言葉でしきりに謝る。そして、間もなく、店長らしき人がやってきて、「謝罪の印に受け取ってくれるように」という意味の日本文を書いたタブレットを私に示しながら、20数センチ大の何か入った紙袋を私に渡そうとするではないか。固辞したが、そうし続けることが、かえって相手を困惑させる感じもあり、有難く頂戴した。

初めての訪問で偉そうなことを言うのは良くないことは分かっているが、何となく親しみを感じる。我が国は、明治時代から種々のアジアの国を占領してきた。台湾もその1つである。台湾に軍属として暮らしていたことのある人の話を小さいころに聞いたことがあったが、総じて好印象

の話が多かったように記憶している。とは言え、幾度となく変節した我が国の台湾政策の中で、台湾の人々は、大変な思いを抱えながら、日本人と付き合ってきたことは間違いない。

豊かな気持ちで台湾から帰国したのだが、そこにはトランプ旋風が吹き荒れていた。「相互関税」という経済外交上の原理が不条理なものではあるまい。ただ事実として、アメリカは従来そのような措置を取らず、いわゆる自由貿易を旨としてきた。今になつて、なぜトランプ大統領は相互関税を叫ぶのか。鳥瞰的に見れば、アメリカの国力が陰りをみせ、鷹揚なことを言っているわけにはいなくなつてきている事情があるかもしれない。一方、下衆の勘繰りとしては、「America first」を叫ぶ大統領が、それに向けた方策を実施しているところを選挙民に見せたいが故ということもあるのか。いずれにしても、他国の事を口汚く罵る人には大統領としての、品格が欠けているように思えてならない。ただ私自身は、そも

そも、品性・品格という言葉

を自らに禁じてきた節がある。何もしない輩が、自分の無為の理由付けに、それとなくこの言葉を用いたりすることがあるからである。「国家の品格」というタイトルのベストセラーもあったが、「国家」と「品格」を結びつける発想にも肯ずることはできない。それぞれの国家は、成り行き次第では、まさに品のないことをしなければ成り立ちいかぬこともあるはずだ。ただ、個々人の事を念頭に置いて考えてみると、我が国で、落とした財布が手元に戻る確率が結構高いことなどを知ったとき、品の良し悪しで事を判ずるのもあながち間違っていないような気がする。以上のような文脈で、トランプ大統領の話をするのは失礼に過ぎるが、86歳の老人には、あの居丈高な様相をアメリカ大統領の顔として認めるのはなかなか難しい。

ここまで書き終わったときに、いつも「光の子」の原稿をやり取りしている、光の子どもの家広報委員、黒川健一郎さんからメールがきた。



使わなくなった非常用電話の受話器

「——お願いしていた光の子どもたちの家の原稿の進み具合は如何でしょうか。締め切りまでにはもう少し時間はありますが、いつも書き上げるのが早かったので、何かあったのかと心配になりご連絡させていただきました。何事もなければ良いのですが。ご連絡お待ちしております。」

私にしては、今回は、確かに原稿の仕上がりには時間がかかった。いやしくも、大統領に文句を付けるとなると、気を付けなければ、こちらが火傷をしてしまう。原稿の遅れから、がんを患った私の体調を気遣ってくれた黒川さん



子どもまつり 宝道さんによる演奏

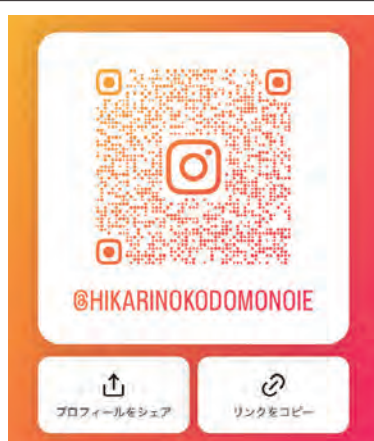


子どもまつり バーベキュー

の気持ちに無性に泣けた。長生きをしなければならぬまい。与えられたその時、そしてま



工作好きな子どもの粘土細工



光の子どもの家 Instagram 開設しました。QRコードです。

た異なるその時に、誠実に力いっぱい生きていこうと思う。

訃報

長きにわたり光の子どもたちの家を監事として支えて下さった高橋和男さまが令和7年5月21日に天に召されました。高橋和男さまは監事としてのほたらきだけでなく、農家や畜産に携わる方々をまとめてくださり、野菜や食肉の支援を呼びかけて下さいました。そして個人的にも光の子どもの家にお心とお力をつかってくださいました。

今までの多大なおはたらきに心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。



【休載のお知らせ】
近藤みちる
「共育ちカンガルー日記」
は休載です。

御ネコ様

彫刻家 中島 睦雄

私のところには頻繁にノラネコがやって来る。

最初は1匹だけだったのが、最近は3匹も来るのである。ネココミュニティでの噂でそうなったのだろう。

それは、来れば必ずジジイからエサを貰えるから。

朝、夕と「御ネコ様たち」に美味しい餌を差し上げることがここ最近の習慣になった。

或る時、その1匹を抱き上げようとして手を触れようとしたらサッと逃げられてしまった。人間に抱かれたことがないのだろう。ネコはもともと

と警戒心が強い生き物なので、そう簡単には懐いてくれないのは分かってはいるのだが……。

あのネコたちは雨の中、暑い日、寒い夜、何処で、どう過ごして居るのやら……おそらく、どこかの物置か、雨のかからない所で丸くなって寝るのだろう。そして、夜が明けたらいつものジジイの所へ行けば良いのである。そうすれば、美味しい餌が待っている。

昔はご飯に味噌汁をかけたものを与えていたが、現在は近くで買える種類も栄養も豊富なネコ様の餌があるので、それを差し上げている。全然レベルが違うのである。

そんなことで、ネコ用の食費は安くない。ジジイの食費はやや控えめにしているのだが、仕方ないか。

その3匹の御ネコ様たちが、毎日毎日やって来て下さるので、独りぼっちのジジイ

も本当に癒やされる。

ありがたや、ありがたや。

厨房から

「工場見学と食」

関根 裕介

新緑の香りが清々しい季節となりました。光の子どもの家の周りの田んぼに稲が植えられる、初夏の風が心地よく夏の兆しが見える頃となりました。

児童養護施設では、安全面や衛生面からも子どもたちが料理をする機会がとても少なく、知識や技術が乏しい子が多いです。食に対してもあまり興味がないのではと感じてしまうこともあります。

そんな中、とても素晴らしいご招待がありました。大阪王将の餃子で有名なイトアイトフーズ工場の見学です。

大阪王将といえば、全国に店舗を展開する人気中華料理チェーンで、その看板メニューの餃子は、香ばしい焼き目とジューシーな餡が自慢です。

今回は、そんな餃子たちがどのように作られているのか



田んぼの横でアリの観察

と、私も参加させていただきました。

まずは、餃子の包み体験。丁寧に、形通りに包む子もいれば、すぐに慣れてテキパキと作り上げていく子、独創的に「これはシューマイ!」、これは「キー!」、と様々な形の餃子を包んでいる姿がありました。どの形の餃子も、教えてくれた方々に沢山褒めて貰い、子どもたちはとても嬉しい様子でした。

その後工場見学へ。工場とただだけあって衛生管理の徹底ぶりは驚愕でした。製造ラインでは人がなせる熟練の技と最新の設備が融合し、一つ一つ丁寧に、それでも早く、

4月の渡良瀬遊水地で水遊び



「お・も・て・な・し？」



とんでもない大量の餃子がものすごい早さでできあがっていく様に子どもたち共々驚くばかりです。工場という大きな建物の中で見たこともない大きな機械がとんでもない早さで大量の食べ物を作って行くその様子を、ガラス越しに顔をべったりつけてジーッと見ており、中々離れなかった幼児もいました。

私としては食材への拘りに観点を置きました。季節による産地の厳選、国産への拘り、独自の配合、味、食感への追求、徹底した温度管理。企業の努力がとても良く伝わってきました。

その間工場の方々は、子どもたちが包んだ餃子を焼いて下さっており、見学後、それをメインにした豪華な中華の

昼食をご馳走になりました。見学を経たことや、自分たちで包んだ餃子ということもあつてか、子どもたちの食欲や、食への関心がとても深まった様子で、普段あまり食べない子たちも沢山食べていた様子が覗えました。

食育という観点でも良い経験となりました。

佐藤家から

「新しい顔ぶれ」

染谷 涼花

過ごしやすい春はあつという間に過ぎ、初夏の匂いがする季節になりました。

その間、進級進学を経て、子どもたちはそれぞれ新しい環境に移りました。

3月、光の子どもの家を旅

餃子づくり体験／お話を聞く／餃子もチャーハンもおいしい！



立ち新しい場所で頑張る子どもちもいれば、新しく光の子どもの家に入ってきた子たちもいます。

新しい環境では、新しい出会いや初めての出来事等で期待もあるでしょうが、不安の方が圧倒的に多いと思います。

中学生ともなれば、部活や進路といった自身の人生に向き合う現実的な要素が増え、自身で決断しなくてはならない事が増えます。

私も、前年度まで原田家でした、今年度から佐藤家になり、受け持つ子たちもガラリと変わりました。

私が今年度から担当することになった1人の美蘭は3月

末に分園のGH（グループホーム）から本園に来ました。今年度から中学3年生で受験生となります。

今まで居たGHでは、年齢の近い女の子同士の関係に悩んだり、学校にあまりいけなかったり……という様子でした。本園に移ってから、ちゃんと自分を出してくれているように見え、学校にもほぼ毎日通っています。

行きたい高校は少しハードルが高いように思えますが、それに向けてオンライン塾を始めた、前を向いてとても頑張っていると思います。

私も美蘭が行きたい高校に入れるように、精一杯サポートして行きたいと思っています。

日誌抄

2025年3月

2025年5月

【6月1日の在籍児童数】

幼稚園5名 小学生14名
中学生10名 高校生5名
計 34名

【3月】

15日 出発（たびだち）の会
9月に退所した某優もGH
の方とともに参加
17日 3月生まれの誕生会
原田家と仙道家の浴室・ト
イレ工事開始
19日 ①キツザニアへ
20日 ①サッカー日本代表戦
観戦、25日も
21日 パントリー
27日 ①イトアンドフーズ
板倉工場見学へ
28日 新年度に向け移動と引
越す
29日 法人理事会&夕食会
【4月】
4日 進級進学祝い 南倉庫
の改修工事開始
5日 ①苺狩りへ
6日 権現堂桜まつりへ
26日 東大宮教会で子どもイ
ースター礼拝

28日 4月生まれの誕生会

【5月】

3日 加須市民平和祭へ
5日 子ども祭り 子どもの
友人、卒園生、ボランティア
ア団体、地域の方など来訪
し、予想を超える大盛況
16日 パントリー
18日 佐東亜矢さん企画「愉
快な大人たちと楽しむ会」
26日 5月生まれの誕生会

【礼拝ご奉仕各位】

東大宮教会 東埼玉バプテス
ト教会 佐々木優牧師

【委員会の主な動き】

今年度より委員会組織を再編
運営 新年度の体制決め
安心安全向上 災害・感染症
対策、公用車管理、環境整
備、園内保育を担う
食生活 子ども祭りのメニ
ュー決め等
広報 インスタグラム開設
情報・通信 新年度のイン
ターネットの約束を、子ども
ひとりひとりと確認

【実習受入】

埼玉県立大学2名

【寄贈】（敬称略）

大塚東一 斎藤恒雄 坂本美



本園の小学生、登校直前

紗子 佐々木優 蓮田健 浜
田文昭 山田智・裕子 笑顔
プラス子供支援協会 カーブ
ス 川島商店 栗橋宮繕 小
林商店 個別指導イールト
セカンドハーベストジャパ
ン すくすく広場 24時間テ
レビチャリティー委員会 福
楽 Gモプレシヤス(株)
他多数の皆様

【ボランティア】（敬称略）

〈華道〉岡本有代 〈手芸〉山
田智・裕子 〈学習〉関口晃
常松洋介 〈保育〉坂本美
紗子 〈その他〉青山学院A
CF 他多数の皆様

ご寄付について（物品の寄贈は事前にお問い合わせください）

【郵便振替】00130-1-128022

他銀行から【銀行名】ゆうちょ銀行

【金融機関コード】9900

【店名】019店

【店番】019

【預金種目】当座

【口座番号】0128022

【埼玉りそな銀行 鷲宮支店】

【口座名義】社会福祉法人 光の子どもの家

【預金種目】普通

【口座番号】0124343

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3

【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp

【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【印刷】(株)エル・アートデザイン